

A black and white photograph of a young boy with short hair, looking directly at the camera with a serious expression. He is wearing a thick, white cable-knit sweater with a high collar. The background is slightly out of focus, showing other people in a public setting.

JEAN SEBERG 1938~1979

「私は、悲しみとともに生きている」

FROM THE JOURNALS OF JEAN SEBERG

ジョン・セバーグの日記

監督：マーク・ラバポート 主演：メアリー・ベス・ハート 1995年/アメリカ/100分/カラー&モノクロ

謎の死から20年、

ニューベル・ヴァーグの女神だったジーン・セバーグ。 あなたは、彼女のことをどれだけ知っていますか？

スクリーンの中の彼女を中心に描く『ジーン・セバーグの日記』と、彼女と親交のあった人々のインタビューで綴る『ジーン・セバーグ：アメリカン・アクトレス』という、彼女についての二つのドキュメンタリーを上映します。

1938年11月13日、アメリカ、アイオワ州に生まれる。

17歳の時、『聖女ジャンス』(57)の主役オーディションを受け、18,000人の中からジャンス・ダルク役を勝ち取る。

『悲しみよこんにちは』(57)のセシル役では、コケティッシュな魅力をふりまき、それを観たゴダールから声がかかり、21歳の時『勝手にしやがれ』(59)でジャン・ポール・ベルモンドの相手役を演じヌーヴェル・ヴァーグの女神と謳われる。

俳優、監督のフランソワ・モレイユと58年結婚、61年に離婚。63年に作家で外交官でもあったロマン・ギャリと再婚。ギャリ監督作品『ペルーの鳥』(68)では主演したが、68年に離婚。72年監督デニス・ベリーと結婚。クリント・イーストウッドとの秘められたロマンスや、監督フィリップ・ガレルとの関係も映画ではふれられている。

生涯に37本の映画に出演。公民権運動でブラック・パンサーを支持していたことによりFBIの監視を受けていた。

1979年9月8日。パリの路上のルノー車の中から青い毛布にくるまった全裸の遺体が発見される。死因はアルコールと睡眠薬の多量摂取で、自殺と発表されるが、暗殺説も囁かれ、現在に至るまで真相は謎である。享年40歳

FROM THE JOURNALS OF JEAN SEBERG

『ジーン・セバーグの日記』

監督：マーク・ラバポート 1995年／アメリカ映画／100分／カラー&モノクロ

●1995年度ロサンゼルス映画批評家協会賞 インディペンデント／実験映画・ビデオ賞受賞

女優メアリー・ベス・ハート(『ガープの世界』)がセバーグとなり、オーディションで映画界にデビューしてから彼女の映画人生を、ウィットとアイデアに富んだ日記風に構成。女優がセックス・シンボルとしか見られなかった時代に、自らの生き方を表したとして知られるジーン・フォンダ、ヴァネッサ・レッドグレイヴらと比較し、セバーグの目から見た60年代女優論となっている。



勝手にしやがれ(59/21歳)



リス(64/26歳)



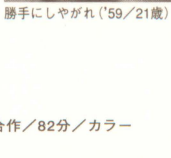
孤高(74/36歳)

AMERICAN ACTRESS

『ジーン・セバーグ：アメリカン・アクトレス』

監督：ドナテロ・デウビニ/フォスコ・デウビニ 1995年/スイス・ドイツ合作/82分/カラー

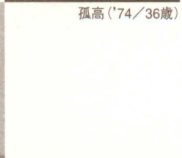
ジーン・セバーグと親交のあった人々へのインタビューと貴重な未公開映像を中心に綴ったドキュメンタリー。最初の夫フランソワ・モレイユ、『勝手にしやがれ』のカメラマン、ラウール・クタル、彼女が公民権運動で支持したブラック・パンサーのメンバーなどが登場し、晩年の彼女の孤独な心の内なども語られ、セバーグの知られざる横顔が浮かび上がる。



デビュー当時(56/17歳)



デビュー当時(56/17歳)



ペルーの鳥(68/30歳)



1965年頃/27歳



ペルーの鳥(68/30歳)

ジーン・セバーグ 没後20年によせて... 3/4(土) 京阪神独占ロードショー!

前売券絶賛発売中! ※当日：一般1,500円/学生1,300円
作品指定券 各1,300円/セット券(作品指定あり) 2,400円
(詳細は劇場へお問い合わせ下さい)

クリスタ長堀南 ⑩番出口すぐソニータワーB1
心齋橋 シネマ・ドウ
06(6251)3789